

第 1 回図書館基本計画策定委員会 議事要録

- 日 時 平成 30 年 3 月 20 日（火） 17 時 30 分開会 19 時 30 分閉会
場 所 中央図書館 3 階視聴覚ホール
出席者 委員 10 名
赤羽委員、大津委員、岡本委員、桂委員、金子委員、北本委員、
竹内委員、船崎委員、松山委員、毛利委員
宮崎教育長
事務局 12 名
養田図書館長、奥野武蔵野プレイス副館長、柏倉吉祥寺図書館長、
加藤課長補佐、前田課長補佐、盛田課長補佐、森本課長補佐、秋庭
係長、荒木係長、須藤主事
- 内 容 1 委嘱状交付
2 教育長挨拶
3 委員紹介
4 出席者紹介
5 議事
(1) 委員長、委員長職務代理の選出について（資料 1）
(2) 現計画の概要について（資料 2 - 1、2 - 2）
(3) 基礎調査の実施結果について（資料 3 - 1、3 - 2）
(4) 今後の予定について（資料 4）
(5) その他

【司会】

定刻となったので開会する。

1 委嘱状交付

【司会】

初めに委嘱状の交付を行う。

各委員は自席にてお受け取り頂く。

< 委嘱状交付 >

続いて教育長よりご挨拶する。

2 教育長挨拶

【宮崎教育長】

ただ今、委嘱状の交付を行った。現在の図書館基本計画が年限を迎えるにあたり、皆様には委員として次期基本計画の策定について協議頂き、意見を賜る。

吉祥寺図書館が4月にリニューアルオープンすることもあり、市民の図書館への関心は高まっている。市民の皆さまのご意見を反映しながらよりよい図書館としていきたい。

武蔵野市では、教育振興基本計画を分野別に策定している。図書館基本計画はその分野別計画のひとつにあたり、教育の振興において大切なものと位置づけている。

昨今、ICTの急激な進展やスマートフォンの普及などにより、書籍や雑誌など情報のあり方が大きく変化している。このような変化の時代において、市民のご期待に応えられる図書館の姿をご検討いただければ幸いである。

委員会の回数が多いため委員の皆さまにはご負担とは思いますが、市民の皆さまのためにもぜひご協力頂きたい。

3 委員紹介

【司会】

出席いただいている委員を紹介する。自己紹介をお願いしたい。

【委員】

武蔵野市で生まれて育ち、別の地域にいた時期もあるものの現在も居住しており、図書館にはお世話になった。お返しをしたい気持ちで参加している。

【委員】

武蔵野市に20年くらい住んでいる。電子化や超高齢化など大きな社会変化のなかで、図書館も変わっていかねばならない時代と思う。市民にとって楽しい図書館になるよう、皆さんとともに考えていきたい。

【委員】

7年前に武蔵野市に転居し、いきいきセミナーに参加した。その同窓生と集まり、読書会を月に1回開催している。人によって読み方や感想が違い勉強になる。こういった経験を生かし、リタイヤした人などにも読書の楽しさを味わってほしいとの思いもあり、この委員会に参加している。

【委員】

学校現場に勤めている立場から、学校と図書館のつながりや連携を検討していければと考えている。

【委員】

平成15年度まで15年以上、市の図書館で勤務していた。今は現場からは遠ざかっているが、皆さんの意見を聴きながら勉強していきたい。

【委員】

大学の常任講師、図書館職員として奉職してきた。学生時代からずっと武蔵野市の図書館を利用し、司書の実習もここで行った。武蔵野市の図書館には深い愛情と思い入れを持っている。役に立てることがあればと参加している。

【委員】

1994年に転居してきて、人生の半分は武蔵野市で過ごしていることになる。図書館情報学が専門で図書館運営委員でもあるが、地元がいい図書館があるのはとてもよいことと思う。地元役に立てればと思い参加している。

【委員】

京都に在住している。修士論文のときに武蔵野市の図書館にお世話になって以来の縁で、図書館運営委員を務めてきた。昨今、大学ではラーニングコモンズという、学生たちが一緒に学べるスペースの整備が進んでいるが、今回の計画においても、市民が共に学ぶ活動の場の支援などを検討していければと思う。

【委員】

今は横浜在住だが、武蔵野市には大学時代など 10 年程度住んでおり、図書館にはお世話になった。全国の図書館に関する情報を有しているので、新しい公共図書館のあり方を皆さんと検討していければと思っている。

【委員】

武蔵野市の教育部長として参加する。図書館基本計画は 10 年計画として策定されるため、10 年間何をするのか・10 年後に何を実現すればよいのか、この二つの観点から考えていく必要があると思う。変化する部分、変化しない部分など様々であるが、皆さまと議論しながら検討していきたい。

【司会】

公務のため、ここで教育長は退席する。

4 出席者紹介

【司会】

続いて、本日出席している職員等を紹介する。

(以下、順に事務局あいさつ)

5. 議事

【司会】

続いて、議事に移る。

★議題(1) 「委員長、委員長職務代理の選出について」

【図書館長】

今回の委員会設置要綱の規定で、委員長は教育長の指名となっており、あらかじめ船崎委員が指名された。同じく規定により、委員長が委員長職務代理者を指名することとなっているので、指名をお願いしたい。

【委員長】

毛利委員に職務代理をお願いしたい。

(毛利委員、異議なし)

【図書館長】

委員長、職務代理者に就任の挨拶をお願いしたい。

【委員長】

大任であるが、ふつつかながらやらせていただく。皆さまのご協力ををお願いしたい。

【職務代理者】

私は図書館制度経営論と情報サービス論を専門としており、それらの立場から協力していければと考える。よろしくをお願いしたい。

【図書館長】

以降の議事進行については委員長にお任せしたい。

【委員長】

承知した。

次に武蔵野市図書館基本計画について。

事務局より説明を。

★議題（２） 「現計画の概要について」

【図書館長】

資料２－１（計画概要版）をお願いしたい。

現在の図書館基本計画は、平成 21 年 5 月に策定委員会を設置し、パブリックコメントの募集を経て、委員会から報告された基本計画案を基にまとめたものである。

「1 計画の位置づけ」であるが、平成 23 年度の武蔵野プレイス開設により、市内 3 駅勢圏に一定規模の図書館を 1 館ずつ設置する 3 館構想が実現された。また、情報化の進展、市民活動の発展、超高齢化社会の到来による生涯学習機会のニーズの高まりといった社会環境の変化もあり、武蔵野市立図書館のあるべき姿の明確化とその実現に向けて、必要な施策を網羅的・体系的に整理することを目的に策定された。

本計画は、教育・文化行政推進のための基本計画として策定されている「武蔵野市生涯学習計画」の図書館部分について整理した個別計画として位置づけられ、平成 22 年度から平成 31 年度までの 10 年間で計

画期間とし、必要に応じて計画期間中に見直しを行っていくこととされている。

本計画は「第1章 計画の位置づけ」、「第2章 武蔵野市立図書館を取り巻く現状と課題」、「第3章 基本方針」、「第4章 実施計画」、「第5章 計画の実現に向けて」の全5章から構成されている。

第3章「基本方針」のなかで武蔵野市立図書館が目指す将来像として次の4点を示している。

- ①「図書や読書の大切さと喜びを実感出来、本のあるライフスタイルを提案・創造する図書館」
 - ・読書の楽しさや新たな知識を得る喜びを生み出す機会の提供、図書館以外の場所でのサービスポイント設置を進め、利用者の身近に本のある、豊かなライフスタイルを提案する図書館を目指す。
- ②「すべての人の学びを支援する図書館」
 - ・武蔵野市に住み、働き、学ぶすべての人の学びを支援する拠点となる図書館を目指す。
- ③「地域住民の課題解決を支援する図書館」
 - ・多様な資料を活用して生活情報にアクセスしやすい環境を構築し、地域住民の様々な課題解決を支援する図書館を目指す。
- ④「人々が交流し文化を創造する地域拠点としての図書館」
 - ・様々な知識や情報、そして人々が出会い、交流し、新しい文化を創造していくための役割を果たす図書館として、市民の知的な活動を育み、地域文化の創造を支援する図書館を目指す。この将来像を実現したものが武蔵野プレイスであると考えている。

「3 施策体系」をご覧いただきたい。

武蔵野市図書館の「目指す将来像」を実現するために「図書館施設・機能の充実」、「安心して利用できる図書館環境の構築」、「質の高いサービスを支える体制整備」の3項目を、また図書館サービスに関する項目として「地域の情報拠点としての情報の蓄積」、「市民や関係機関と連携したサービスの充実」、「図書館の活用と情報収集の支援」、「市民の学びと課題解決の支援」、「利用対象者別の図書館サービスの充実」の5項目をあげ、それぞれ具体的な施策とそれを進めていくための主な事業について記載している。

「4 計画の実現に向けて」では、図書館サービスと事業進捗の評価を実施し、本計画の進捗管理を行っていくことを記載している。

続いて「資料2-2」に、今回の委員の皆さまに討議願いたい内容をまとめた。

まず、「市民に対するこれからの生涯学習支援における、本市図書館が果たすべき役割について」は、つまり「理念」とも言えるもので、概念的に一文で表現できたら、と考えている。

次に1を踏まえ計画改定に伴い想定する課題として、次の5点を挙げる。

- ①中央図書館を中核とした図書館行政、運営のあり方
- ②公共施設等総合管理計画で定める類型別施設整備計画（図書館整備計画）の策定
- ③資料収集、整備のあり方（資料収集方針（電子図書等）、除籍基準）
- ④学校連携の方向性
- ⑤来館困難者、利用困難者に対するサービス

説明は以上である

【委員長】

以上について質問があればどうぞ。

【委員】

現在、武蔵野プレイスと吉祥寺図書館は指定管理者制度を導入しており、中央図書館は直営だが、中央図書館の運営形態について市としての方向性は定まっているか。もしくは、将来的な運営形態もこの策定委員会における検討課題と考えてよいか。

【図書館長】

この策定委員会においてご検討願いたい。

【委員長】

他にないか。

（これ以上の意見なし。）

また疑問や質問などあったら、事務局に。

次の議題に移る。事務局より説明を。

★議題（３） 「基礎調査の実施結果について」

【図書館長】

資料 3-1、3-2 をお願いしたい。概要版を見ながらご説明する。

図書館基本計画改定及び、武蔵野ふるさと歴史館管理運営基本方針改定の基礎資料とするため、15歳以上の市民を対象とした市民アンケート調査を実施した。2,000名に送付し557名から回答を頂き有効回収率は27.0%。前回24年度（25年2月）実施時は、3,000人に送付、858名から回答、有効回収率は28.5%（856人）であったので、概ね同程度の回収率となった。

回答者の属性はほぼ満遍なく分布している。質問項目は、前半が図書館に関して、後半は武蔵野ふるさと歴史館（以下、ふるさと歴史館）に関してであるが、ふるさと歴史館については本委員会とは関係ないので説明は割愛する。

（以下、まる付き数字は、資料の番号）

読書状況としては、①82.3%が毎月本を、63.1%が雑誌を読むと回答しており、前回79.2%、61.8%と大きな差異は見られなかった。②入手経路に「図書館」をあげたのは、本44.1%、雑誌26.7%。本は前回47.8%であったので若干減少したが、雑誌は17.8%と逆に8.9ポイント増加した。いずれも「購入（本69.8%、雑誌55.9%）」よりは少ない。

③調べものは83.3%がインターネットで行い（前回72.3%）、⑤電子図書の利用経験は33.7%と、いずれも前回調査（10.5%）より大きく伸びている。⑦電子書籍を利用したい端末としては、スマートフォンが40.3%とトップになり、前回の26.4%より大幅に伸びた。

図書館利用の状況としては、①63.3%が過去一年以内に図書館を利用したことがあると回答した（前回64.3%）。②利用しない理由としては、46%が本や雑誌は購入して読むと回答している（前回47.3%）。

⑥満足度に関しては、87.4%が満足、又はやや満足と回答している。前回はこの数値が46.3%であったため大幅増であるが、これはこの間の図書館の努力の結果であるとともに、前回は「ふつう」という評価項目があったためと考えられる。前回調査結果で、「満足」「やや満足」に

この「ふつう」（38.7%）を足すと85.1%と、今回と近い数値になる。

図書館について、④今後の図書館サービスの方向性への意見では、A「本を借りたり、くつろいで読んだり」という従来型の利用形態が87.6%ともっとも高く、次にC「地域・市民活動の拠点、青少年の居場所」が55.2%と半数超え、B「課題解決型図書館」は45.1%、D「ビジネス支援」は26.1%であった。

⑤ボランティアは48.2%に意向があるが、⑥そのうち50%が、返本や書架整理といった、図書館らしい内容のボランティアを希望していることがわかった。

【委員長】

以上について質問があればどうぞ。

【委員】

アンケート調査で、もうひとつの調査対象施設となっているふるさと歴史館とは、何か連携等が行われているのか。

【図書館長】

ふるさと歴史館は、武蔵野市の公文書館としての役割も担うことになっている。現在、市の古文書的なものは中央図書館、映像アーカイブなどは武蔵野プレイスが有しているが、今後は、これらの歴史的文書・公文書などの保管について、ふるさと歴史館との間で整理し、連携やすみわけを検討していく予定である。

【委員】

今回の計画検討にも関係しそうに思われる。

【図書館長】

現在も、中央図書館で行なっている古文書講座にふるさと歴史館の学芸員が来て担当の先生と協力して開催するなどの連携は行われている。

【委員】

歴史資料の管理などがふるさと歴史館に移るのであれば、そのぶん、既存の図書館は新しい役目を担う必要性が出るかもしれず、図書館活動の変化のポイントになる可能性がある。

【委員】

調査結果の「読書状況、図書・資料入手の方法など ②本・雑誌の入手経路」で、「雑誌を図書館で借りる」という人が前回から9ポイント上がったとのことだが、その差は有意なものと考えてよいか。また、この結果についてどのように考えるか。

【図書館長】

ご指摘のとおり、書籍は図書館で借りる人が前回調査より減って購入が微増、雑誌は逆に図書館で借りる人が増えて購入が減る、という結果であった。

【委員長】

武蔵野プレイスには雑誌が多く所蔵されていることの認知が影響しているのではないか。

【委員】

武蔵野プレイスの雑誌コーナーは入り口近くにあり目につきやすく、種類も豊富で利用しやすい。これが影響していると考えます。

【図書館長】

調査結果の有意差については、今回の票数であれば、概ね5%以上の差があれば有意といえる。

【委員】

吉祥寺図書館でも雑誌を充実すると、この結果はもっと上がるのではないかと。ただ、出版社や書店等から見ると喜ばしくない結果かもしれないが。

【委員】

休廃刊になる雑誌が増えていることも影響しているのでは。また、現在では、雑誌はほとんどコンビニエンスストアで買われ書店流通自体が減少しているので、図書館に流れていることも考えられる。図書館では、雑誌は大量に置くことで広く認知される傾向があるので、武蔵野プレイスの成功もその結果であろう。この成功を他の図書館に取り込むことも必要と思う。

一方で、「増やして欲しい蔵書」の一位に「小説・エッセイなどの新刊本」が挙げられているのは、出版関係者が見たらあまり快い結果ではないと思う。

雑誌については、専門性が高い、市民の調査研究に役立つものが読まれているなら良いが、簡単に手に入る雑誌ばかりが手に取られているなら問題である。

「図書館を利用していない理由」で「本や雑誌は購入して読んでいるから」が他の自治体と比べて非常に高く、市民の所得の高さが顕著に現れている。一方で、それなのに「小説・エッセイなどの新刊本を増やしてほしい」が高いのは矛盾しており、図書館活動の本質が市民に完全には浸透していないという課題も感じる。

【委員長】

「知りたいことを調べる方法」で、「インターネットで」が前回調査で 72.3%だったのが今回 83.3%になったとのことだったが、「図書館で」の前の数値を知りたい。

【図書館長】

前は 10.6%であったので、今回の 8.5%に比べて 2.1 ポイント下がっている。

【委員】

調査報告書本編で「知りたいことを調べる方法」の結果を詳しく見ると、年齢層による差異が大きく、10代では「インターネットで」が100%となっている。10年後を考えるとこの結果は着目すべきものであろう。ウェブやインターネットを、図書館サービスとして、また調べ物対応としてどのように活用していくのか、踏み込んで計画に盛り込んでいくことが必要と思われる。

まずはホームページの整備が重要であろうが、将来、調べ物をする際に図書館が選ばれるようなあり方も含めて、検討が求められるように思う。

【委員】

一般に、図書館が情報拠点であり、情報を得る際に相談にのってくれる場である、ということへの認知度が低い。これが大きな課題である。

「レファレンス・サービス」という言葉も知らない人が多い。図書館が情報センターであること、そのために職員の研修も行うこと、そういったことの認知度を高めていくことが大切である。

【委員】

図書館では、人気の本は予約がいっぱいで書架には見当たらない。しかし、インターネットを使えば、蔵書としては存在しているが全て貸出中であるとわかり、予約も入れられる。つまり、インターネットが使えれば図書館を十全に活用できるが、使えない人は図書館にある書籍等の情報を得ることすら難しいというのが現実。認知度を高めるのであれば「インターネットがあれば図書館をさらに活用できる」と知らせる方が、現実的な利用しやすさにつながると思う。

論文など専門分野についてはレファレンス・サービスも必要であろうが、図書館が相談にのってくれるところというイメージは、若い人たちを中心に、ほとんどない。今後、その傾向は強くなっていくのではないか。

【委員】

昨今、図書館の関係者は「図書館にはインターネットでは解決できないような、ハイレベルな情報提供が必要」と考えている。

インターネットで検索して何万件もヒットしても、全ては見ることにはできないし、上位にヒットしたものだけ読んでも浅い情報となりがち。本当に何かを調べるといのは深いものがあるので、図書館には、簡単な検索では出てこない情報の提供や、データベース・サービスなど深い調べ方の案内などが必要であろう。これを実現するためには、職員研修が相当重要である。

【委員】

インターネットの検索サイトで勤務していた経験から言うと、インターネットと対決姿勢をとると図書館は滅びる。インターネットにより、既に日本の図書館は撤退戦を強いられていると感じる。

日本の図書館の多くは、インターネットの情報を不確かなものとして距離を置いてきた。しかし、インターネットでわからないことは2割、人生で必要なことの8割はインターネットでわかるといえる。

インターネットは日々進化している。確かにネット上には嘘の情報

もあるが、それを是正する余地もある。これに対して、図書館が「インターネットは嘘の情報、図書館は正しい情報」という立場から対応しようとするとは負けるだろう。

情報には、「駅までの最短の道のり」のように正しい回答があるものと、人間関係の悩み事のように本人が考えたり決断したりするしかないものがある。

前者は IT でほぼ解決できるので、図書館がインターネットを内包して対応していくことが考えられる。後者を解決できる日は永遠に來ないであろうが、その判断の補助となるものを図書館が示すことはできるだろう。そういった関係性でやっていくことが大切と思う。

【委員】

今のお話のような図書館とインターネットの連携について、具体的にイメージできる例はあるか。

【委員】

例えば「ウィキペディアタウン」というものがある。ウィキペディアにある地域（エリア、観光名所、文化財等）の記述を、図書館にある資料を活用してより信頼性が高いものにしていくという活動で、東久留米市の図書館が先駆的に取り組んでいる。この活動により、IT 好きの若者が図書館で地域資料にあって感動するなど、新たな利用者開拓にもつながっている。

また、日本にはまだないが、8K 映像で閉架書庫を写して画面を触るだけで貸し出す、スマートフォンのアプリで利用者カード機能を管理し、利用者に貸出し業務を行わせるなども、技術的には可能である。

別の話となるが、調査報告書本編を見ると、西東京市や杉並区の図書館を使っている人が多く見られる（西東京市の図書館をよく利用する：17.0%、杉並区の図書館をよく利用する：21.3%）。地域に良い図書館があることは、文教政策であると同時に効果的な定住促進策でもある。近隣自治体と張り合う必要はないが、西東京市や杉並区の図書館を選択している人たちのニーズをきちんと把握する必要があるのではないか。

【委員】

私は三鷹市の図書館をよく利用する。それは、武蔵野市の図書館では数年待ちと言われる人気の新刊小説が、三鷹市の図書館で予約すれば、

短期間で借りられるからである。住みやすいということではなく、借りやすいという点が大きい。

【委員】

西東京市と武蔵野市は入り組んでいるため、地理的な関係で西東京市の図書館を使っている人も結構いると思う。

【委員長】

他にないか。

(これ以上の意見なし。)

次の議題に移る。事務局より説明を。

★議題（４） 「今後の会議予定について」

【図書館長】

資料４をお願いしたい。

各回、資料４にお示ししたとおりテーマでの検討をお願いし、10月の「中間まとめ案」では、全体の8割程度の完成を目指したい。

その後、パブリックコメントなどの結果を踏まえ、修正を加えて最終案として来年2月にとりまとめることを想定している。

【委員】

忙しいので、なるべく早く全ての委員会日程を決定してほしい。

【委員】

図書館の視聴覚ホールが取れる日が限られているとのことだが、図書館のための委員会であるから、この策定委員会が最優先で使ってもよいのではないか。

【委員】

会議の形はいつもこんな感じか。ブレインストーミングのような形式でもよいのではないか。

【委員】

場所は、できれば見学を兼ねて、3つの図書館を巡回することを希

望したい。そうすれば、現場スタッフの声も聞くことができる。委員にも職員にも勉強になるであろう。

また、毎回でなくてもよいが、ワークショップ形式やブレインストーミングで検討を進めることに賛成である。あるいは、学校で開催して、学校図書館や子供達の様子を見るといった方法もあるのではないか。

【図書館長】

3つの図書館を巡回しながらの開催は予定していた。実現していきたい。

* 日程調整

【委員長】

第2回は4月26日（木）17時半より、

第3回は5月24日（木）17時半より、

第4回は6月26日（火）17時半より、それぞれ開催する。

会場は、3つの図書館をはじめとする武蔵野市の施設とし、別途連絡する。

【委員】

策定委員会全体のイメージがわからないので、この時期に何を決めていかなければならないというのがあれば、公開してもらえないか。

【事務局】

資料4がそれにあたるものなので、ご参照願いたい。

【委員】

資料説明をここで聞くのは時間がもったいないので、事前に電子データなどで送ってほしい。

【事務局】

できるだけ早くにお送りできるよう努力する。

【委員】

中央図書館の書庫を見たいと伝えてある。委員会の前などに、希望

する委員は見られるようにしてほしい。

【事務局】

そのようにしたい。

【委員長】

他にないか。

(特になし)

続いて その他 に移る。

★6 その他

【委員長】

その他、何かあるか。

(特になし)

【委員長】

以上で第1回図書館基本計画策定委員会を閉会する。

以上